

学位論文要旨

New dinosaur ichnofauna from the Lower Cretaceous of the eastern margin of Asia: Implications for ichnotaxonomy and paleogeographic correlation

(アジア東縁の下部白亜系から産出した新たな恐竜印跡動物相:
印跡動物分類学および古地理学的関係に対する示唆)

氏名 築地 祐太

近年、東・東南アジアの下部白亜系から恐竜足跡化石の報告例が増加している。日本でも、中部日本の手取層群から多くの恐竜足跡化石が発見されている。特に北谷層が露出する北谷恐竜化石発掘現場では、手取層群で最も多くの恐竜足跡化石が産出している。これらの足跡化石は北谷層の動物相構成のみならず、東・東南アジアの前期白亜紀における恐竜の古生物地理を解明するための重要な手がかりとなる。しかしながら、これらの足跡化石の印跡動物分類学的な記載は不十分である。そこで本研究は、北谷層および他地域の手取層群から産出する恐竜足跡化石の印跡動物分類学的な記載を行ない、東・東南アジア下部白亜系の恐竜足跡化石と比較した。

本研究の検討から、北谷恐竜足跡動物相は様々な恐竜印跡分類群を含んでいることが明らかになった。それらのうち、イグアノドン類の足跡化石は *Caririchnium* タイプと *Amblydactylus* タイプという2つの印跡動物タイプに分けることができ、これは当該地域から産出するイグアノドン類体化石の分類学的多様性と対応していると考えられる。一方、獣脚類の足跡化石は印跡動物科のグラレーター科、ユーブロンテス科、およびオルニトミミプス科、印跡動物属の *Asianopodus* と *Minisauripu* という5つの分類群からなることが明らかになった。さらには、2種類の鳥類、竜脚類、小型鳥盤類、およびアンキロサウルス類の足跡化石も当該地域から確認された。獣脚類とイグアノドン類の恐竜足跡化石は、他地域の手取層群からも同定された。それらは北谷恐竜足跡動物相に典型的に見られる獣脚類の印跡動物科であるグラレーター科とユーブロンテス科、およびイグアノドン類の印跡動物属である *Caririchnium* と *Amblydactylus* を含む。

北谷恐竜足跡動物相の構成は、獣脚類とイグアノドン類が卓越する。この傾向は晋州（韓国）および夾関（中国四川省）恐竜足跡動物相の構成と類似しており、特に、後者とは類似性が高い。その一方で、北谷恐竜足跡動物相の印跡動物分類群のいくつかは田家楼（中国山東省）、涇川（中国内モンゴル自治区）、河口（中国甘粛省）、およびコク・クルアト（タイ）恐竜足跡動物相と共通するが、全体的な印跡動物分類学的構成は互いに異なる。

前期白亜紀のアジア大陸には、山系で隔てられた複数の堆積盆が存在していた。特に、秦嶺、大別、および蘇魯といった山系はアジア大陸を内陸部と沿岸部に隔てていた。獣脚類およびイグアノドン類優勢の恐竜動物相は日本、韓国、および四川省といった沿岸部に、獣脚類と竜脚類優勢の恐竜動物相は山東省や内モンゴル自治区といった内陸部に分布していた。